

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

1 ガクちゃん先生の真面目な授業風景。中学校の数学科主任として、生徒たちに数学の面白さを知ってほしいと教え方にもさまざまな工夫を凝らして。教師歴6年目、男子卓球部部长であり、情報科学部担当でもある。



2



3

3 昨年10月に群馬県桐生市の市民文化会館での講演会。「ガクちゃん先生講演会～脳性まひの現役中学校教師が奮闘6年を語る」というタイトルで熱弁をふるう。人との出会い、コミュニケーションがライフワーク。

教師を天職と決めて3度のトライ、 障害に勝るバイタリティで夢をかなえる人。

三戸学 秋田市立秋田西中学校 教諭

ガクちゃんこと、三戸学さんは中学校の数学の先生。中学生の頃はなんとなくだったが、高校生の時にはゼッタイ教師になることを心に決めていたのだという。子どもにとってとても身近な大人であり、その言動や態度が子どもたちに大きな影響を与える教師という職業に就いて、自分も未来を担う人間に対して、良い影響を与える人間になりたいと考えたのだ。しかし、生まれつき脳性マヒという障害を持つ三戸さんにとって、その夢の実現は容易なものではなかった。それでも、教師以外の職業は考えられなかったという三戸さんは3度目の教員採用試験で見事に合格、今は念願となって中学校の数学科主任として、男子卓球部部长としてイキイキと教鞭を執っている。

目指すは「障害者版金八先生」というだけあって、その熱血ぶりは「がんばれ「ガクちゃん」先生—脳性まひの現役中学校教師の奮闘記—」という本になってしまうほど。

そんな三戸先生が数ある教育学部の中から山形大学を選んだ理由としては、地元秋田を離れて一人暮らしがしてみたかったからと、小学4年生の時に南陽市で過ごした一週間がとても印象深く、また山形に行ってみたくと思ったから。

その山大学生時代とても前向きでチャレンジャーでパワフルだったようだ。附属中での教育実習では数学科を代表して研究授業をしたり、障害があるという理由で家庭教師のアルバイトを斡旋してもらえなかったときには、キャンパスで仲間呼び

かけて「障害と共に歩む会」というサークルをつくり、「時給：無料の家庭教師」のピラを作って呼びかけ、家庭教師のアルバイトができるようにしたり、健常者にひけをとらないどころか一歩リードの活躍ぶり。今はそのパワーの大部分を中学教師と卓球に注ぎ込んでいる。昨年12月には修学旅行の引率をするという夢もなかった。最近では講演依頼も増え、教師をしながら講演活動などを通して伝えることをライフワークにしていきたいという思いも着実に実現している。次なる夢は、学級担任になること、2008年の北京パラリンピックに出場すること。多少時間はかかっても一つ一つ夢を実現してきた三戸先生のこと、これらの夢もきっと夢では終わらせないだろう。

信念の成果